

若い人々に再び捧ぐ…最も若く 最も美しい 愛の名篇!!

その時
ふたりは
16歳と
14歳であつた
.....

オリビア・ハッセー
レナード・ホワテング

ミロ・オーシア マイケル・ヨーク

ジョン・マッケナリー

俊鋭フランコ・ゼフィレッリ監督

原作■シェイクスピア

音楽■ニーノ・ロータ

《テクニカラー》

ROMEO
& JULIET

ロミオとジュリエット

主題曲 キヤピトル・レコード ♪

パラマウント映画

CIC配給

ロミオとジュリエット



かいせつ

シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』といえば『ハムレット』と並んで世界中の人々に最も愛されている古典戯曲であり、若い夢みる頃の人なら誰もがこのように美しくまた、哀しい恋にあこがれを抱くだろう。事実、古今東西、あらゆるラブ・ストーリーの原典は『ロミオとジュリエット』だといえいわれ、映画化もこれが四回目である。

主役のロミオを16才のレナード・ホワイティングとジュリエットに15才のオリビア・ハッセーという、当時全くの新人の新鮮なコンビと、『ジャジャ馬ならし』で有名になったイタリア演劇界の鬼才フランコ・ゼフィレリ監督の鮮烈で華麗な映像美を演出力のすばらしさが世界中を湧かせた。

原作の主人公にふさわしい年令の俳優を探して活躍させた、というゼフィレリの卓越した感覚が、シェイクスピアの四〇〇年もの昔の恋物語を現代によみがえらせたのである。

原作にも有名なバルコニーのシーン、仮面舞踏会における二人の出会いのシーン、そしてロミオとティボルトの決斗を端緒として悲劇のクライマックスに突入する墓地の場面の感動など、枚挙にいとまのない美しく感動的なシーンの連続である。

あらすじ

イタリア・ルネッサンス黎明期の一四五〇年の春まだ浅きベロナの町。

二大名門として知られるモンタギュー家とキャピレット家は家長から下男に至るまで、何かと云うと仇敵視しあう仲で、血で血を洗う争いが絶えなかった。

ある日、キャピレット卿は恒例の舞踏会を開き多数の貴族たちが集った。モンタギュー家のロミオはその舞踏会につくび込み、その中で一きわ目に美しく美しい令嬢を見た。その美しさはたちまちにしてロミオを恋のとりこにした。

お互いは手を取りあい踊った。しかし、二人は敵同志だという事を知って驚き悲しんだ。恋の手びきは二人を月夜のバルコニーに会わせ、若い二人は結婚を誓った。

当然二人の恋には、さまざまな邪魔が入った。二人を理解し助けるのは神父と乳母だけだった。二

《スタッフ》

監督……………フランコ・ゼフィレリ
脚本……………フランコ・ゼフィレリ
"……………フランコ・ブルサーティ
美術……………ルチアノ・ブッチーニ
衣装……………ダニロ・ドナーティ
作曲……………ニーノ・ロータ

《キャスト》

ジュリエット……………オリビア・ハッセー
ロミオ……………レナード・ホワイティング
ロレンス神父……………ミロ・オーシア
ティボルト……………マイケル・ヨーク
乳母……………バット・ヘイウッド
ベロナの太守……………ナターシャ・バーリー



人はひそかに神父様の前で結婚式をあげ、永遠の愛を誓った。

しかし、事態は急転した、ケンカを仲裁しようとしたロミオが、かつてジュリエットの母の甥ティボルトを殺してしまったのだった。ロミオは追放され、ジュリエットはこのま、死にたいと泣いて床に倒れたのだった。これは、悲劇の、ほんのはじまりであった……。

★レナード・ホワイティング

ロンドン生まれ。ポップ歌手になったが、認められてロンドン公演の『オリバー』に15カ月にわたって出演。それからディズニータのTV映画に出演、モスクワ・ベルリンなどで公演したり名をあげて来た。350人の応募者に勝って、発声・フエンシング・番号の猛練習を行った。この作品で世界中の女性を魅了し、その後『太陽の征服者』に出演。

★オリビア・ハッセー

アルゼンチン生まれ。父はオペラのテナーだった。母はイギリス人。オリビアの芸歴としてはロンドンの舞台上に2年立っただけ。2本の映画に端役として出演。映画史上最年少のジュリエット役で世界中のアイドルとなった。

世界各国を旅行するのが趣味だというが、つい最近、歌手ディーン・マーティンの息子デイノと結婚してファンにショックをあてた。

陽春ロードショー!



パラマウント映画
C I C 配給

有楽町 日劇前 ニュー東宝 (571) 1946

